



令和7年11月19日
行政経営課

パブリック・コメントのお知らせ

パブリック・コメントの実施について

下記の案件について、県ホームページ等でパブリック・コメントを実施しますので、お知らせします。

記

1 案件名

「愛媛県酪農・肉用牛生産近代化計画（案）」に対する意見の募集について

2 意見公募期間

令和7年11月20日（木）～令和7年12月22日（月）（郵送の場合は、当日消印有効）

3 意見の提出方法

下記のいずれかの方法（住所、氏名、電話番号明記）

（1）郵送 〒790-8570 松山市一番町四丁目4-2
愛媛県 農林水産部 農業振興局 畜産課あて

（2）FAX 089-912-2574
愛媛県 農林水産部 農業振興局 畜産課あて

（3）E-Mail chikusan@pref.ehime.lg.jp
件名に「愛媛県酪肉計画（案）に対する意見」と記載の上、住所、氏名及び電話番号を明記して下さい。

4 計画案等の公表資料の閲覧場所

県のホームページ上、県庁（畜産課、行政経営課、県民総合相談プラザ）並びに各地方局及び各支局（県民相談プラザ）

5 問い合わせ先

【計画案の内容に関するここと】

愛媛県 農林水産部 農業振興局 畜産課 酪農飼料係
TEL：089-912-2575 FAX：089-912-2574

【パブリック・コメント制度に関するここと】

愛媛県 総務部 総務管理局 行政経営課 行政改革グループ
TEL：089-912-2226

県ホームページURL：<https://www.pref.ehime.jp/page/7417.html>

※貴市町のホームページにリンクを貼って頂くとともに、管内配布の広報媒体等もご活用を検討願います。

愛媛県酪農・肉用牛生産近代化計画（案）の概要

計画期間 令和8年度～令和12年度（「現在」の数値は令和5年度）

基本的な考え方

本県では、これまで飼養規模の拡大や新技術の導入による経営の安定化により、酪農及び肉用牛生産振興を図ってきたが、高齢化や担い手不足による飼養戸数の減少に加え、飼料を始めとした生産資材の高止まり、環境や持続性に配慮・対応した畜産物生産の必要性の高まり等、酪農・肉用牛を取り巻く情勢は大きく変化している。

このため、移り変わる経営環境に対応できる持続的な酪農・肉用牛生産を目指した取り組みを推進する。

具体的な対策（抜粋）

1 担い手の確保、経営力の向上

- ・魅力ある業としての発信、国・県の各種支援策の周知
- ・施設の補改修・家畜導入等の持続的な経営のための支援

2 労働力不足への対応

- ・公共牧場、コントラクター等の外部支援組織の活用や、スマート農業の導入推進による省力化・効率化。
- ・外国人材等の多様な労働力の確保・定着に向けた環境・体制づくり

3 家畜衛生対策の充実・強化

- ・水際検疫の徹底
- ・飼養衛生管理基準遵守の徹底による防疫対応の強化

4 安全確保の取組の推進

- ・GAP や HACCP の認証取得等による生産から加工までの各段階におけるより高度な工程管理の推進
- ・飼料や動物用医薬品等の適正使用や抗菌薬の慎重使用の取組の推進

5 アニマルウェルフェアの推進

- ・生産者、消費者双方の理解醸成、先進的な取組の普及・啓発

6 環境と調和のとれた畜産経営

- ・耕種農家のニーズに合った堆肥生産やペレット化等による耕畜連携の推進
- ・堆肥センター等の外部支援組織の活用による持続的な経営基盤構築の推進

7 自然災害に強い畜産経営の確立

- ・非常用電源等の融通計画や災害発生時の事業継続体制の整備
- ・牛舎・施設の倒壊等の対策、停電対策、断水対策の推進

8 暑熱対策の推進

- ・畜舎環境等の効果的な暑熱対策の周知・指導
- ・気候変動を踏まえた品種、作期等の検討・指導

9 経営安定対策等の着実な運用

- ・配合飼料価格安定制度を始めとする各種経営安定対策の適切な運用

10 消費者の理解醸成等

- ・オンライン等での情報発信による畜産業の社会的意義や畜産物の価格形成に対する消費者の理解醸成の推進

重点的に取り組む事項

担い手の確保

- ・第3者継承等を活用した担い手確保と地域の連携
- ・事業等を利用した外部支援組織の持続的な経営体制の確立

飼養頭数等の目標

| 区分 | | 現在 (R5年度) | 目標 (R12年度) | 伸び率 % |
|-----|------------------|--------------|---------------|----------|
| 乳用牛 | 総頭数 (頭) | 4,500 | 4,180 | 92.9 |
| | 成牛 | 3,440 | 3,170 | 92.2 |
| | 経産牛 | 3,140 | 2,820 | 89.8 |
| | 経産牛 1頭当たり乳量 (kg) | 9,080 | 9,600 | 105.7 |
| | 生乳生産量 (t) | 28,501 | 27,000 | 94.7 |
| 肉用牛 | 総頭数 (頭) | 9,910 | 9,560 | 96.5 |
| | 肉専用種 | 5,660 | 5,660 | 100.0 |
| | 繁殖雌牛 | 1,670 | 1,670 | 100.0 |
| | 肥育牛 | 3,300 | 3,300 | 100.0 |
| | その他 | 690 | 690 | 100.0 |
| | 乳用種等 | 4,250 | 3,900 | 91.8 |
| | 乳用種 | 960 | 900 | 93.8 |
| | 交雑種 | 3,290 | 3,000 | 91.2 |

飼養戸数の目標

| 区分 | | 現 在 (R5年度) | 目 標 (R12年度) |
|-----|---------------|------------|-------------|
| 乳用牛 | 農家戸数 (戸) | 78 | 55 |
| | 1戸あたり飼養頭数 (頭) | 57.7 | 76.0 |
| 肉用牛 | 農家戸数 (戸) | 133 | 85 |

飼料作物の作付面積等の目標

| 区分 | 現在 (R5年度) | 目標 (R12年度) | 伸び率% |
|------------------|-----------|------------|-------|
| 飼料作物の作付面積 (ha) | 1,845 | 1,794 | 97.2 |
| 飼料作物の生産量 (TDNトン) | 11,722 | 13,110 | 111.8 |

近代的な酪農及び肉用牛経営方式の指標

(1) 酪農経営 (2 方式)

| 方式名 | 経産牛 (頭) | 飼養方式 | 経営内作付延べ面積 (ha) | 生乳コスト (1kgあたり) | 飼養労働時間 (経産牛1頭あたり) | 所得 (生乳販売額) |
|--|------------|----------------|-------------------|-------------------|----------------------|---------------|
| 飼料生産組織の活用により国産飼料を確保し、家族労働力を中心に経営資源に見合った頭数規模で安定した所得を確保する家族経営 | 50 | つなぎ・パイプライン | 10 | 126 円 | 100hr | 530 万円 |
| 飼料生産組織の活用や耕畜連携により国産飼料を確保し、搾乳ロボット等の省力化技術や発情発見・分娩監視装置等のスマート農業技術により労総時間を削減し、少ない農業従事者数で安定した所得を確保する法人経営 | 100 | フリーストール・搾乳ロボット | 16 | 131 円 | 64hr | 687 万円 |

(2) 肉用牛経営 (4 方式)

| 方式名 | 飼養頭数 (頭) | 飼養方式 | 経営内作付延べ面積 (ha) | 生産コスト (千円) | 飼養労働時間 (hr) | 所得 (生乳販売額) |
|--|--------------------|------|-------------------|------------------------|-------------------|---------------|
| 肉専用種繁殖経営 | | | | | | |
| 適切な規模での効率的な飼養管理を図る家族経営 | 30 | 繫飼 | - | 458 千円 (子牛1頭あたり) | 69hr (子牛1頭あたり) | 410 万円 |
| 肉用牛（肥育・一貫）経営 | | | | | | |
| 繁殖・一貫化による畜産費の低減等を図る家族経営 | 肉専用種繁殖 25 肥育 53 | 群飼 | 3.8 | 1,030 千円 (肥育牛1頭あたり) | 56hr (牛1頭あたり) | 551 万円 |
| 国産飼料の活用や肥育成績などのデータを活用した経営改善により生産性の向上等を図る家族経営 | 肉専用種肥育 125 | 群飼 | 2.2 | 731 千円 (肥育牛1頭あたり) | 38hr (牛1頭あたり) | 634 万円 |
| 肥育期間の短縮により生産性の向上等を図る家族経営 | 交雑種肥育 300 | 群飼 | 6.0 | 698 千円 (肥育牛1頭あたり) | 31hr (牛1頭あたり) | 704 万円 |